



---

# 株式会社ビー・エム・エル

## 2020年度決算説明会

2021年5月13日  
代表取締役社長  
近藤 健介

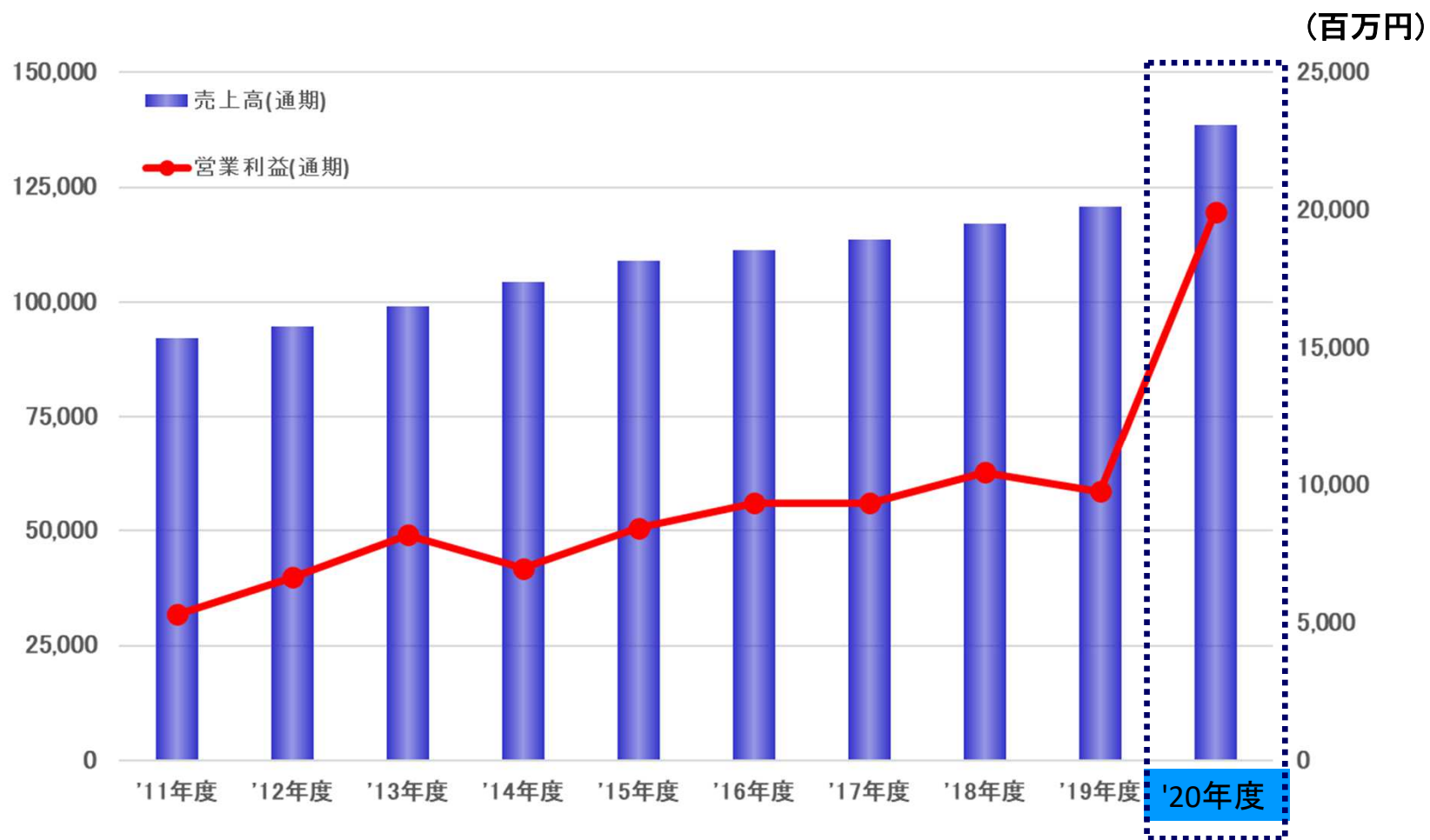


---

# 2020年度決算業績概要

# 10年間の業績推移

**【新型コロナウイルスPCR検査が貢献し増収・増益】**



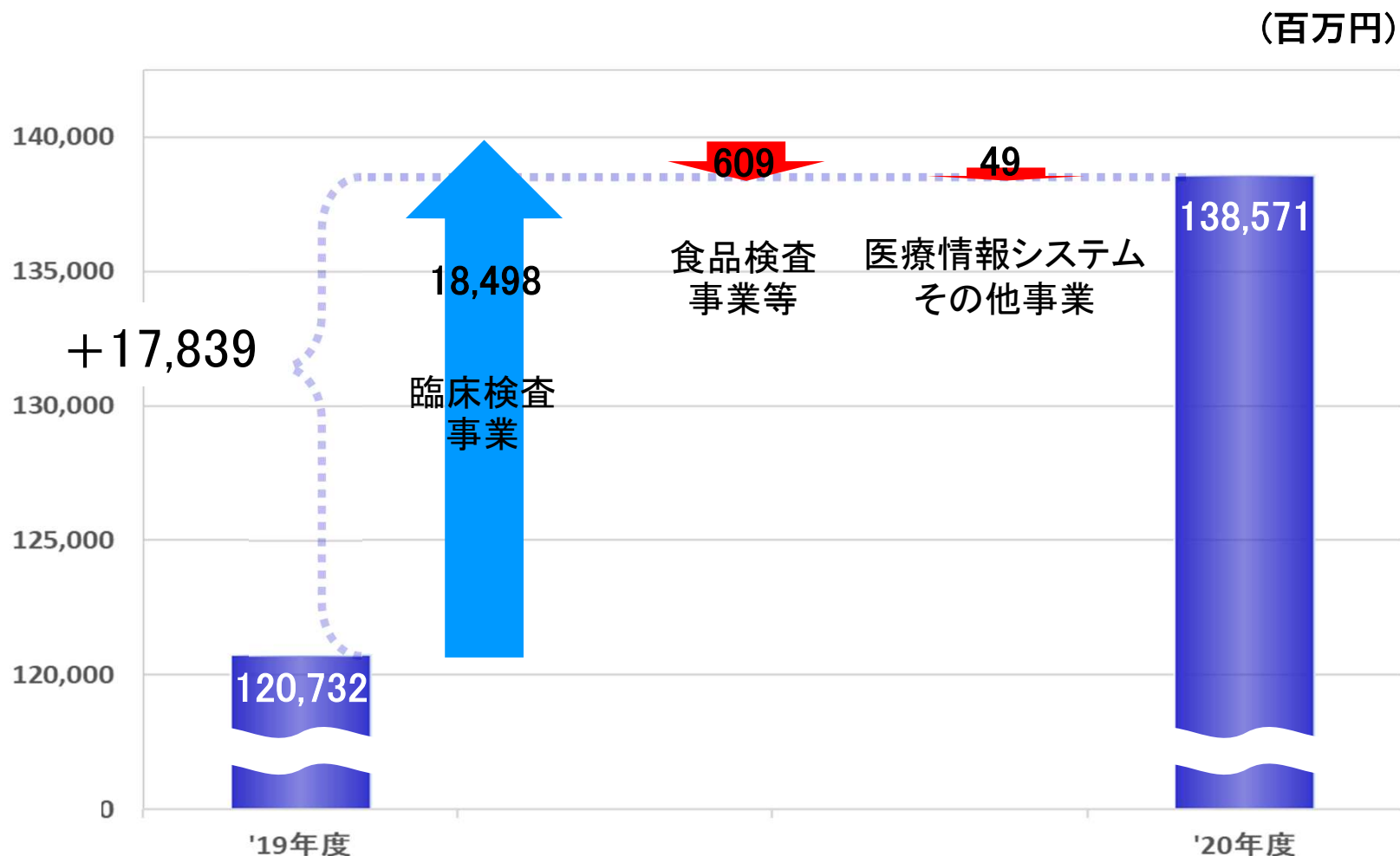
# 前年度比較表

(百万円)

	'19年度	'20年度	増減額	増減率
売上高	120,732	138,571	17,839	14.8%
検査事業	115,022	132,911	17,888	15.6%
臨床検査	110,113	128,612	18,498	16.8%
その他検査	4,908	4,299	-609	-12.4%
医療情報システム	4,202	4,214	12	0.3%
その他事業	1,507	1,445	-61	-4.1%
営業利益	9,763	19,936	10,172	104.2%
経常利益	10,211	20,803	10,592	103.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,375	13,711	7,336	115.1%

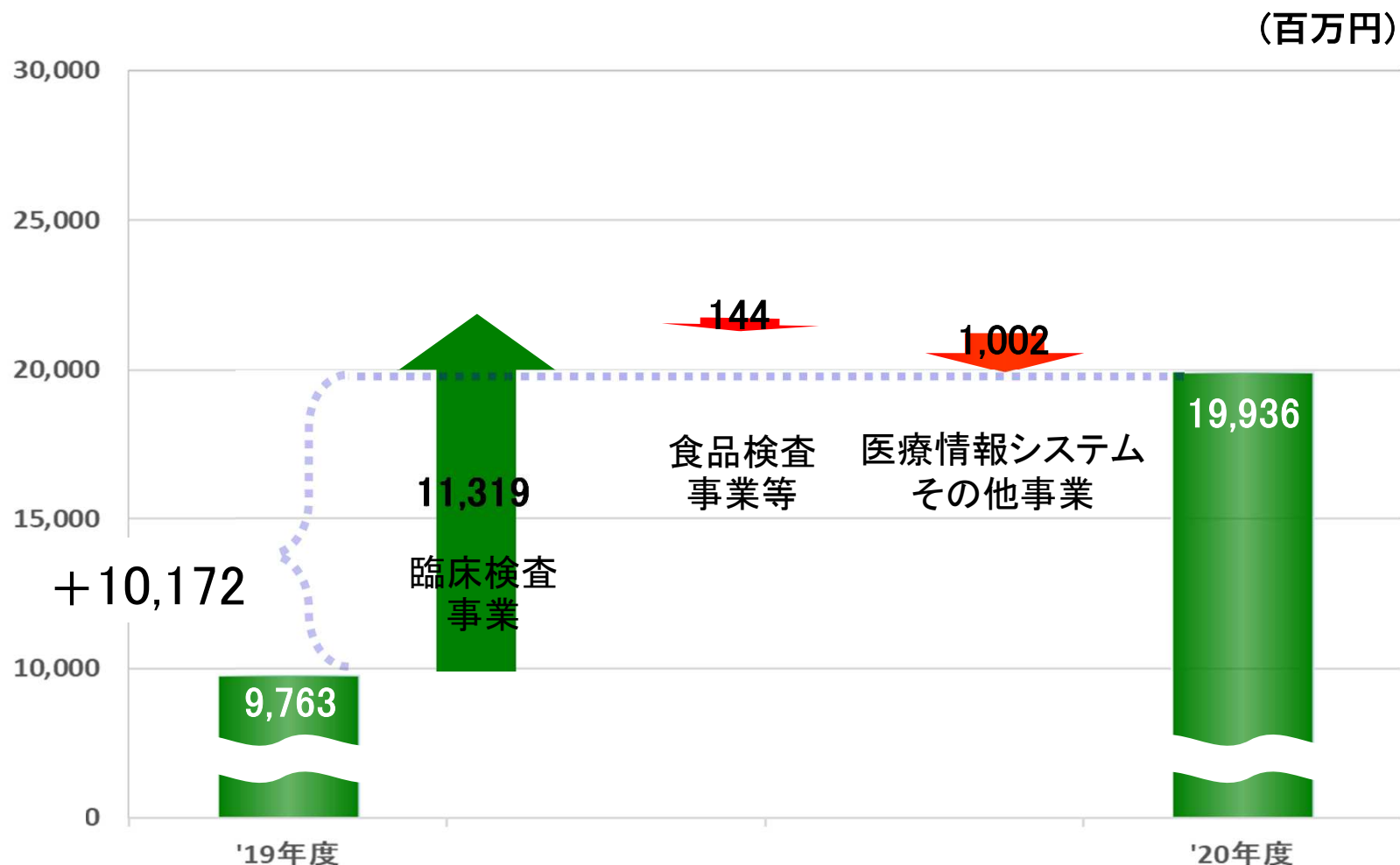
# 事業別売上増減の内訳

**売上高 前期比 178億39百万円(14.8%)増収**



# 事業別利益増減の内訳

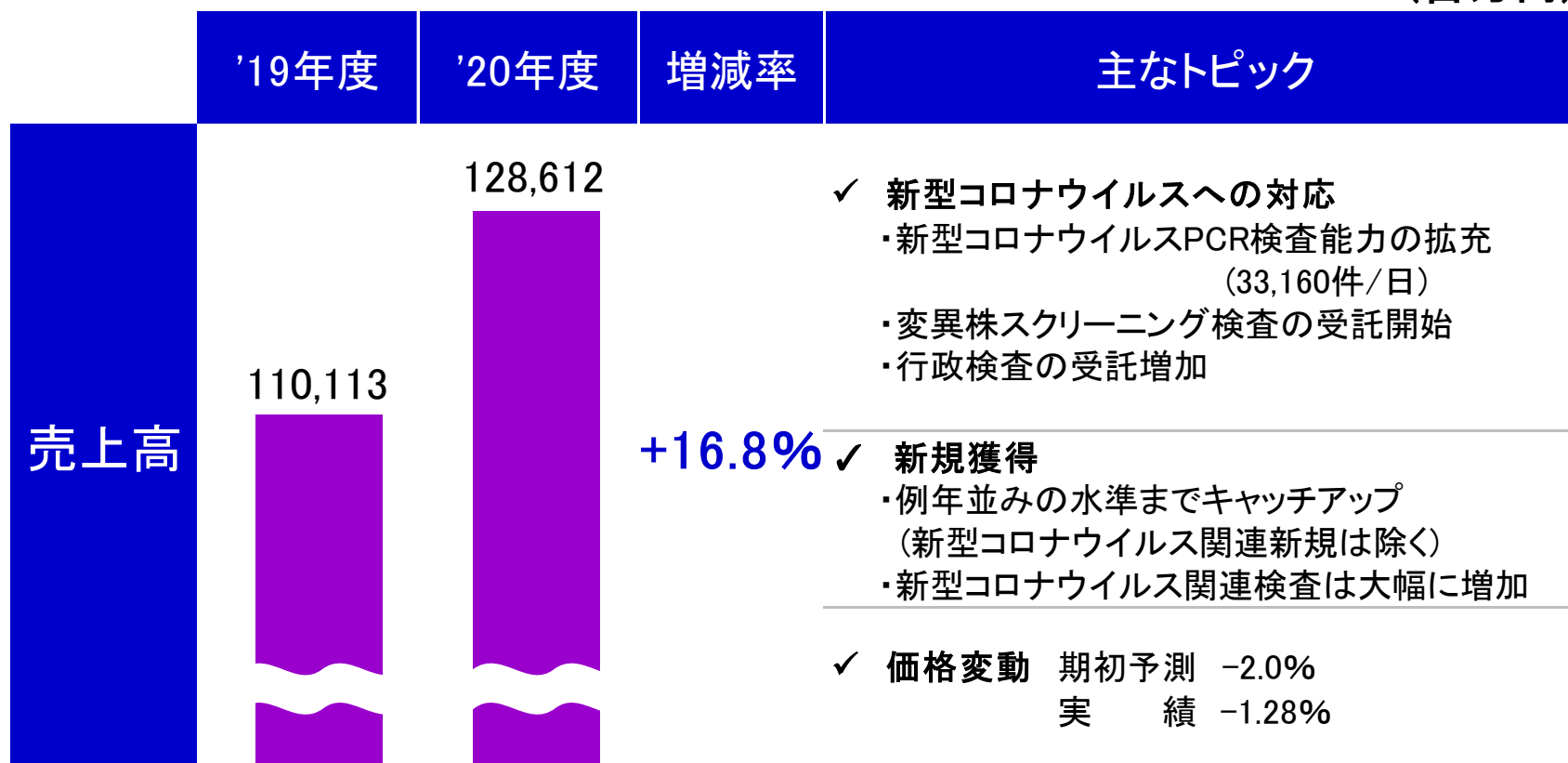
**営業利益 前期比 101億72百万円(104.2%)増益**



# 臨床検査事業の概要

売上高 1,286億12百万円  
 前期比 184億98百万円(16.8%)増収

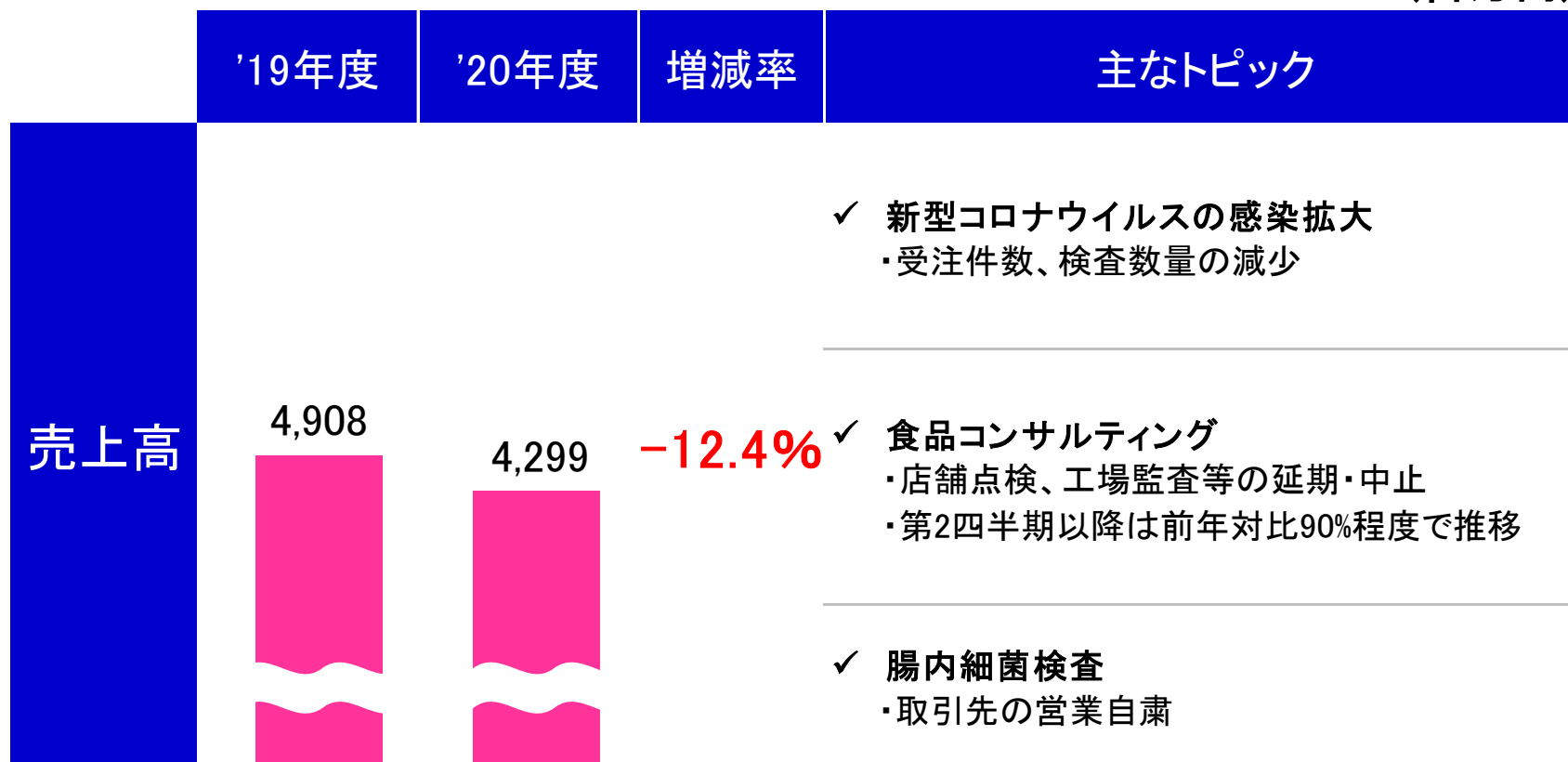
(百万円)



# 食品検査事業等の概要

売上高 42億99百万円  
 前期比 6億9百万円(12.4%)減収

(百万円)

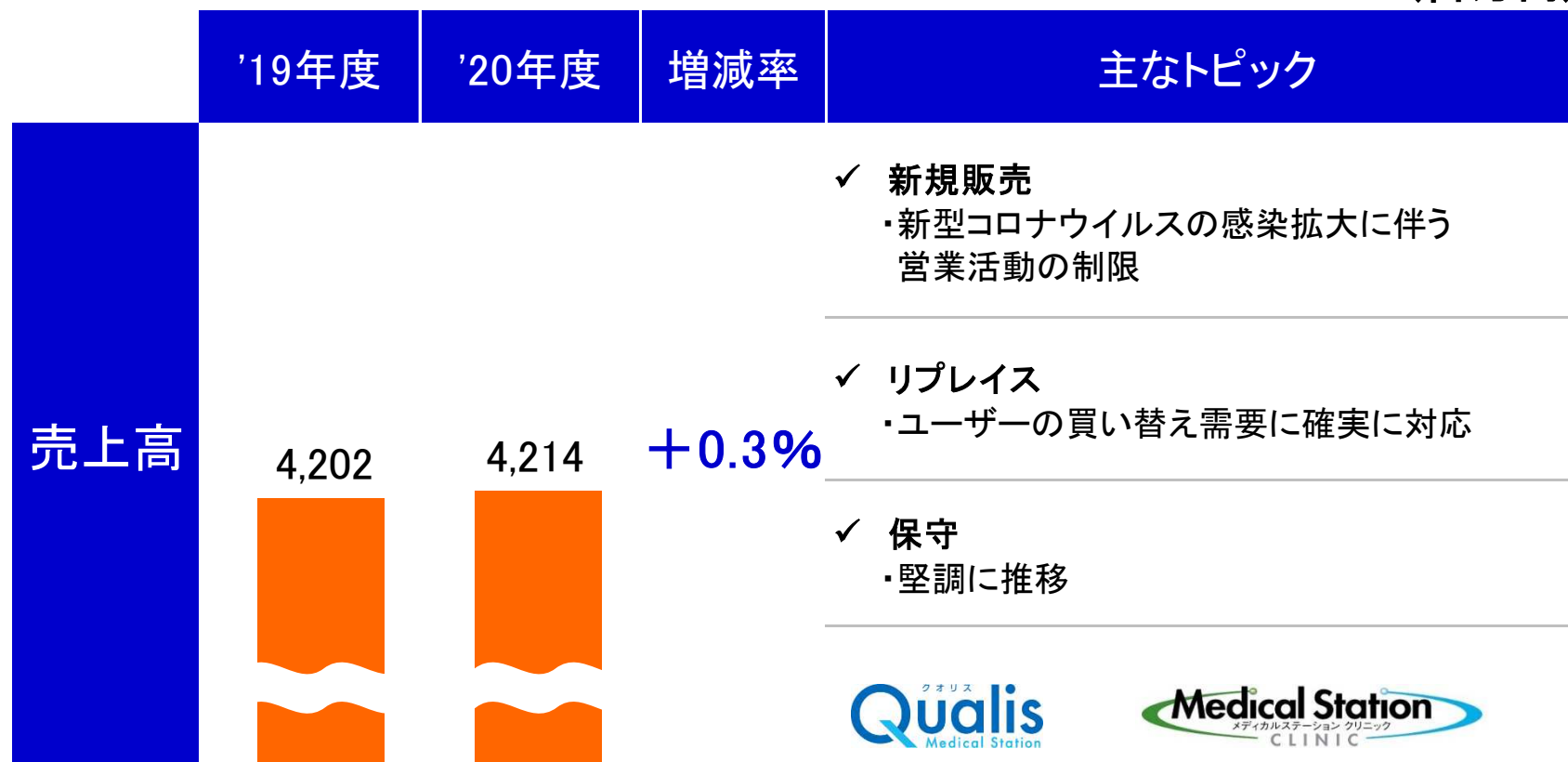




# 医療情報システム(電子カルテ)の概要

売上高 42億14百万円  
 前期比 12百万円(0.3%)増収

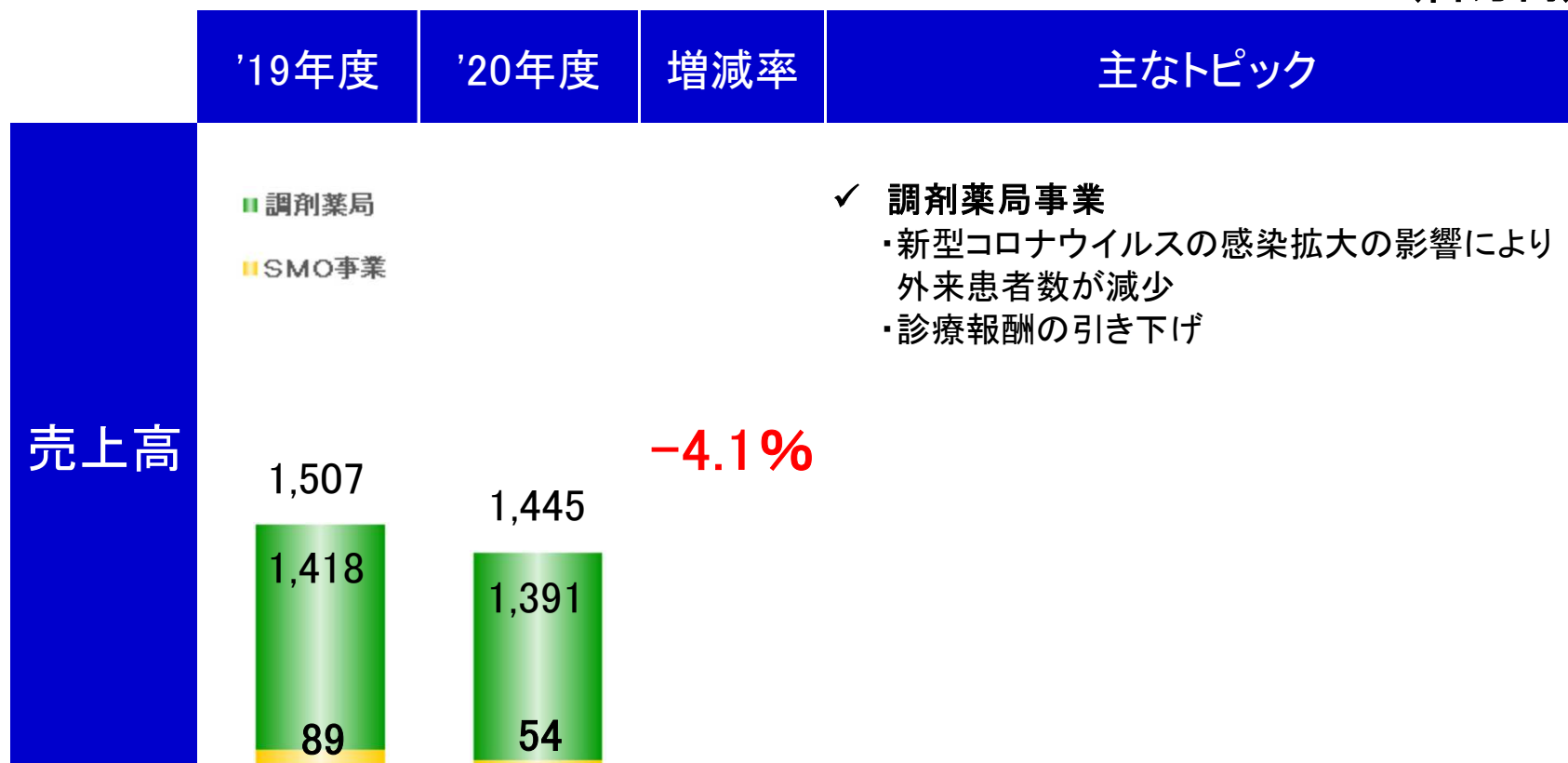
(百万円)



# その他事業の概要

売上高 14億4千5百万円  
 前期比 61百万円(4.1%)減収

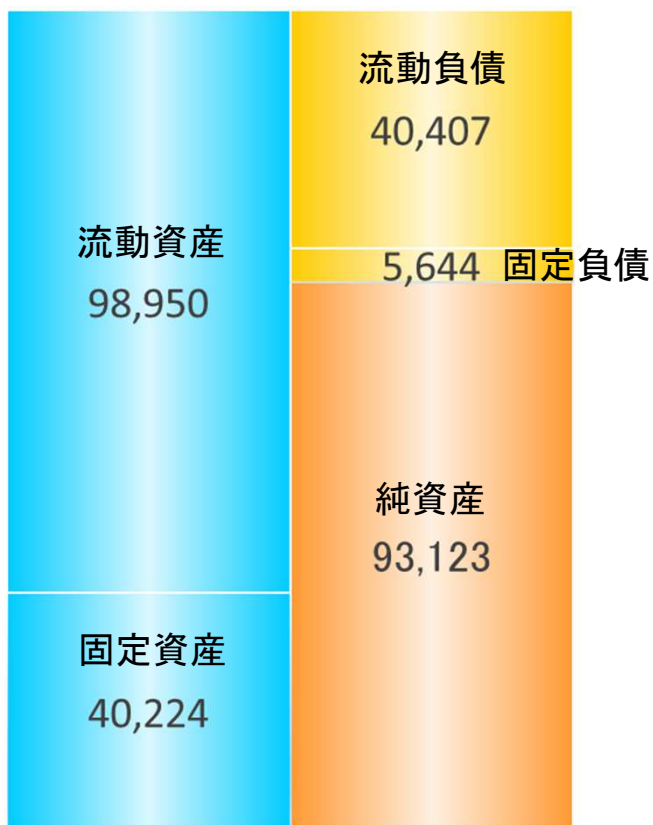
(百万円)



# 連結貸借対照表の概要

'21年3月末

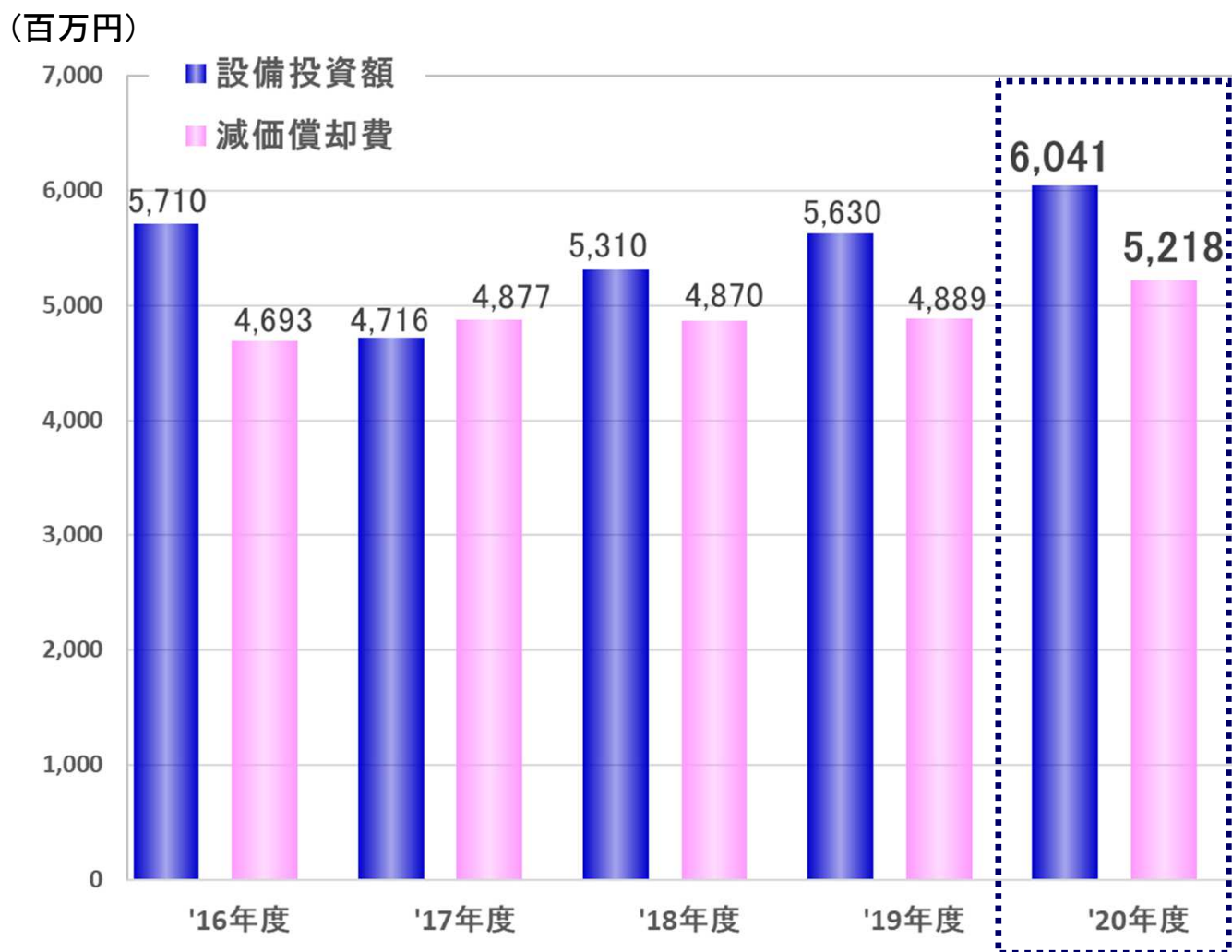
総資産 139,174M  
(前年末比 22,901M 増加)



主要な増減要因 (前期末比)

- ✓ 流動資産
  - ・ 現金及び預金 +12,265M
  - ・ 受取手形及び売掛金 +9,234M
- ✓ 流動負債
  - ・ 支払手形及び買掛金 +4,542M
- ✓ 純資産
  - ・ 利益剰余金 +11,883M

# 設備投資額・減価償却費の概要





# キャッシュフローの概要

	(百万円)		
	'19年度	'20年度	増減
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>12,771</b>	<b>19,574</b>	<b>6,803</b>
税金等調整前当期純利益	10,175	21,002	10,826
減価償却費	5,043	5,365	322
売上債権の増減額	478	-9,223	-9,701
法人税等の支払額	-3,690	-2,874	815
その他	763	5,304	4,540
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-5,213</b>	<b>-4,584</b>	<b>628</b>
有形固定資産の取得による支出	-2,939	-3,091	-151
無形固定資産の取得による支出	-1,168	-1,106	61
その他	-1,105	-386	718
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-8,784</b>	<b>-3,383</b>	<b>5,401</b>
リース債務の返済による支出	-1,355	-1,379	-24
配当金の支払額	-1,661	-1,828	-166
自己株式取得による支出	-5,578	-	5,578
その他	-188	-174	14
現金及び現金同等物の期首残高	49,204	48,246	-958
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	268	-	268
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>48,246</b>	<b>59,853</b>	<b>11,606</b>

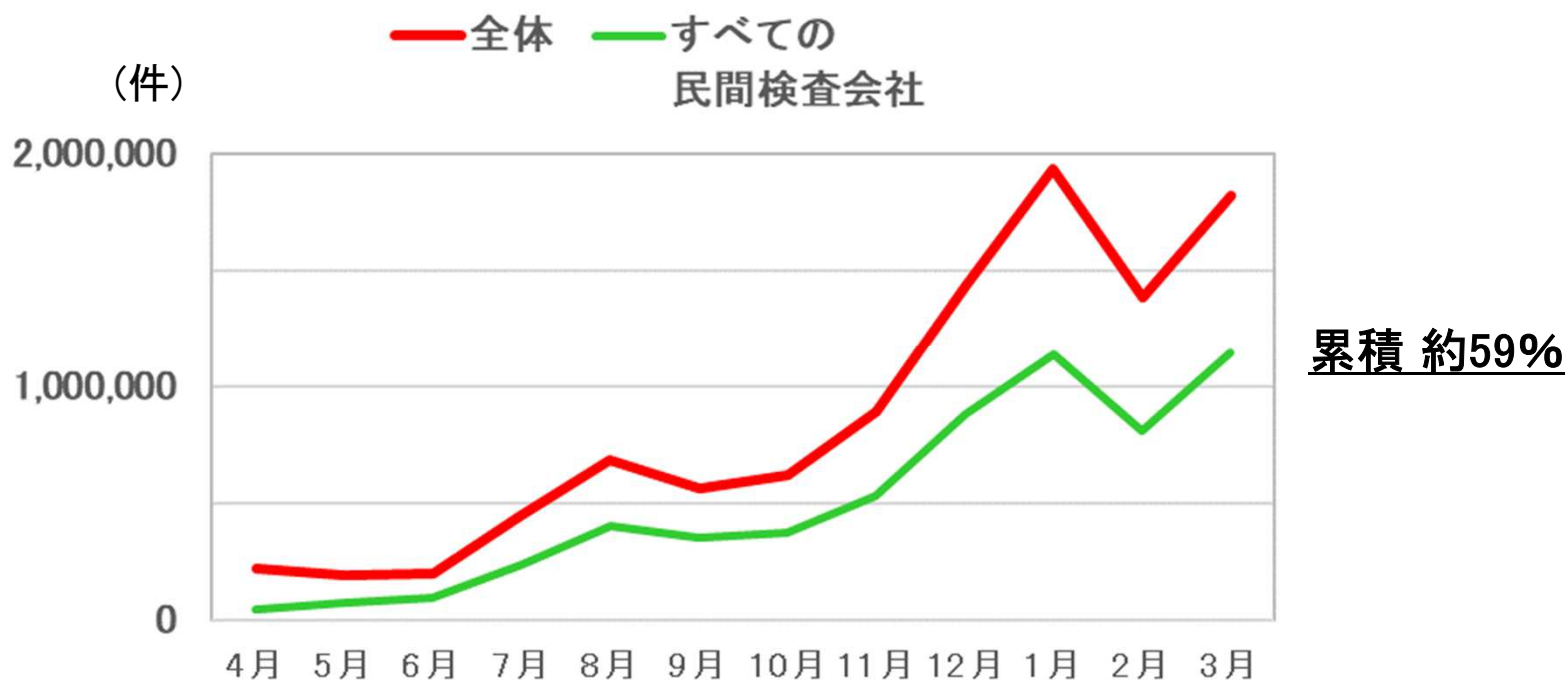
# 新型コロナウイルス感染症への対応

# 新型コロナウイルス感染症への対応

## ✓ 検査実施数の推移（2020年4月～2021年3月）

◇ 全体のPCR検査のうちすべての民間検査会社の検査実施数は増加

→ 累計（4月～3月）では、約59%を民間検査会社で実施  
（参考：4月～9月 約53%）



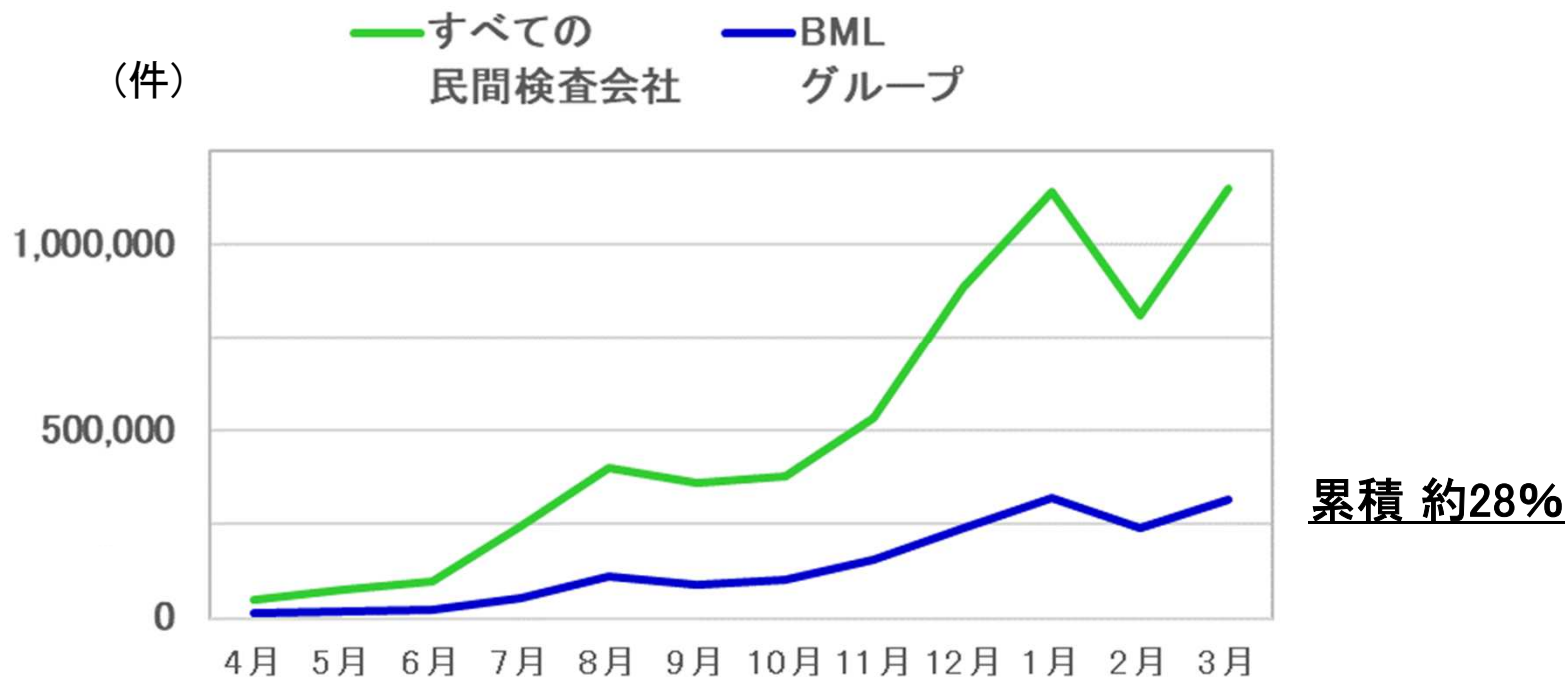
※ 厚生労働省のPCR検査実施状況をもとに当社作成

# 新型コロナウイルス感染症への対応

## ✓ 検査実施数の推移（2020年4月～2021年3月）

◇ すべての民間の検査会社のPCR検査のうちBMLグループの実施数

→ 累計（4月～3月）では、**約28%**をBMLグループで実施  
（参考：4月～9月 約26%）



※ 厚生労働省のPCR検査実施状況をもとに当社作成



# 新型コロナウイルス感染症への対応

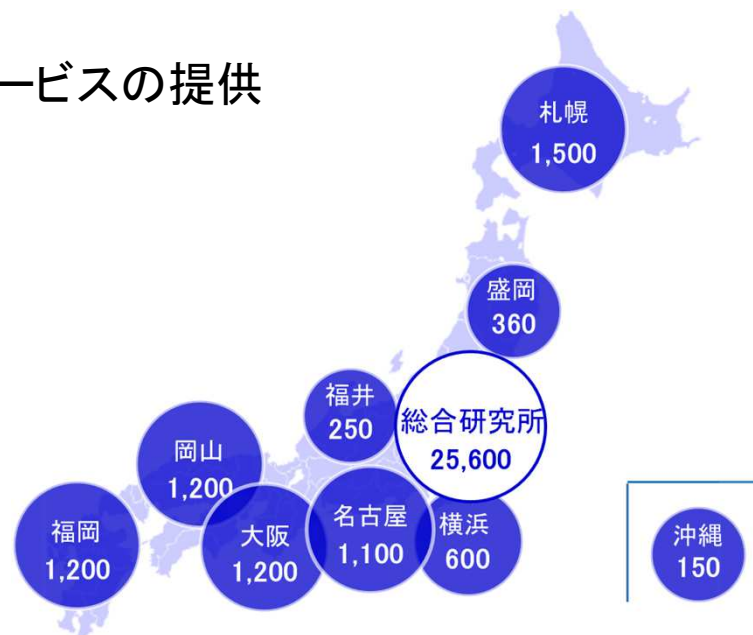
## ✓ 地域完結型ラボ、主要拠点ラボでPCR検査の受託体制を構築

- ◇ 報告時間の短縮
- ◇ 地域医療体制の充実に向けたサービスの提供

## ✓ 検査能力の拡充

- ・ 2020年9月 8,300件/日
- ・ 2021年1月 20,900件/日
- ・ 2021年4月 33,160件/日

→ バックアップ体制の強化



## ✓ 変異株のスクリーニング検査

- ◇ BMLグループのPCR陽性検体に対応が可能な検査能力を確保

→ 今後もPCR検査能力に応じたスクリーニング検査体制を維持

## 中期経営計画(以下、中計)

# 第7次中期経営計画レビュー

- 第6次中期経営計画までに整備された「拠点ラボ・分離ラボ/営業体制」を軸に品質を向上させ、さらなる成長へとつなげる。

医療界に信頼され選ばれる企業をめざす

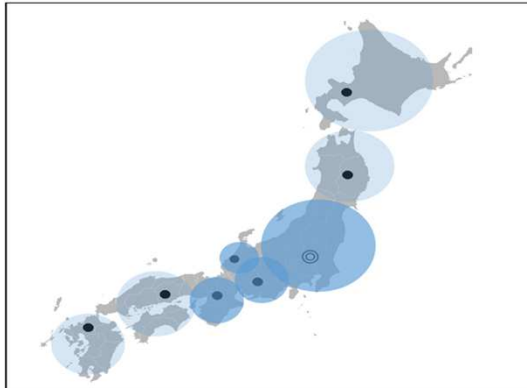


# 第7次中期経営計画レビュー

- ✓ 4つの戦略「地域サービス」、「検査ラインアップ」、「医療界への貢献」、「品質」でNo.1を目指す。

## 品質・サービス No.1へ

地域サービス No.1



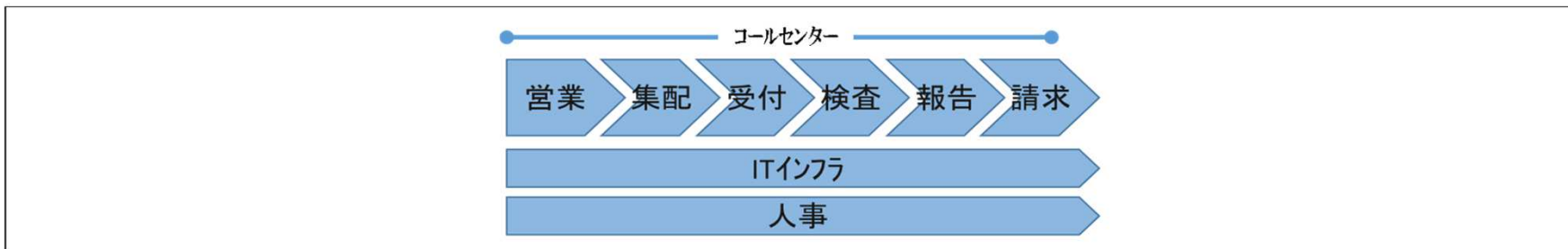
検査ラインアップ No.1



医療界への貢献 No.1



品質 No.1



# 第7次中期経営計画レビュー

## 地域サービス No.1

- **地域ごとのマーケティングに基づくラボネットワークの熟成**  
→ 拠点ラボの実施検査を73項目拡充
- **医療関連異業種との連携**  
→ 電子カルテ販社約400の販社と契約
- **友好民間センター・医師会の関係強化**  
→ 民間友好センター：増加  
→ 医師会友センター：大きな進捗はなし

## 検査ラインアップ No.1

- **検査能力の向上**  
→ 新規検査104項目を追加
- **高機能分析器を活用した検査項目の開発**  
→ 次世代シーケンサーを用いた項目を新たに4項目上市
- **食品検査事業(周辺事業)の拡大**  
→ 腸内細菌検査を培養法から遺伝子法への切替をほぼ100%達成

## 医療界への貢献 No.1

- **ラボラトリーフォーラムの拡充**  
→ 1900名を超える参加
- **臨床研究への積極的関与**  
→ AIホスピタルへの参画
- **医療関連事業への寄付活動**  
→ 信州大学医学部など複数の大学  
→ 日本医師会・日本看護協会

## 品質 No.1

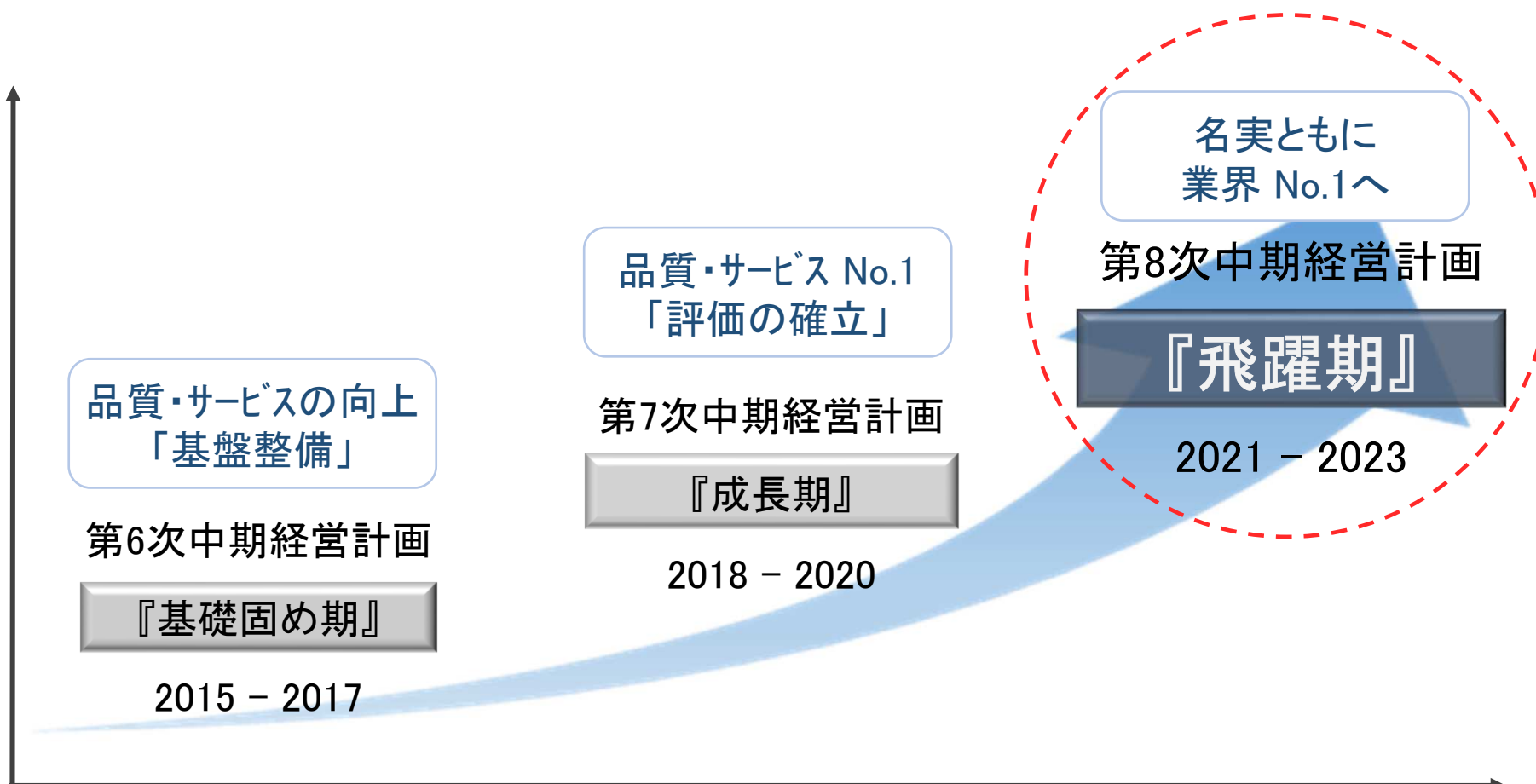
- **品質管理の高度化**  
→ 温度管理(3温度帯)の体制整備の完了  
→ 分離ラボでの分離率100%を維持
- **AI・IoT等を活用した業務改革**  
→ RPAを活用した業務効率化を実施(4業務)
- **ラボエンジニアリングによる自動化推進**  
→ 構想検討に着手
- **顧客対応の高度化(新コールセンター)**  
→ コールセンター新システムの導入  
→ 電子カルテフィールドサポートを4拠点(札幌・大宮・東京・福岡)に配置

# 第7次中期経営計画レビュー

	(百万円)			
	'20年度 数値計画	'20年度 実績	達成額	達成率
売上高	120,950	138,571	17,621	114.6%
検査事業	115,090	132,911	17,821	115.5%
臨床検査	109,700	128,612	18,912	117.2%
その他検査	5,390	4,299	-1,091	79.8%
医療情報システム	4,370	4,214	-156	96.4%
その他事業	1,490	1,445	-45	97.0%
営業利益	10,750	19,936	9,186	185.5%
利益率	8.9%	14.4%		
経常利益	11,200	20,803	9,603	185.7%
利益率	9.3%	15.0%		
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,750	13,711	6,961	203.1%
利益率	5.6%	9.9%		

# 第8次中期経営計画の位置づけ

医療界に信頼され選ばれる企業をめざす



# 外部事業環境

## 国内の基礎的な要件

### (1) 政治・経済情勢

- ・ 少子高齢化の進展
- ・ 各種災害リスクの高まり
- ・ 医療費の削減
- ・ 2025年の崖(DX)
- ・ SDGsへの取り組み

### (2) 社会的要請

- ・ 働き方改革への対応
- ・ ダイバーシティの進展
- ・ BCP再検討の必要性
- ・ デジタル化の加速
- ・ ガバナンスの強化
- ・ コンプライアンスの徹底

### (3) 技術革新

- ・ AI/ビッグデータの活用
- ・ 次世代通信技術(5G)による遠隔・リアルタイム情報の利用

## 医療・検査 業界動向

### 競争・競合 環境

- ・ 価格競争への対応
- ・ 地域医療連携の普及
- ・ 地方検査センターとの連携
- ・ 異業態・海外からの参入

### 新サービス

- ・ 高機能検査(CDx)の開発
- ・ オンライン医療への対応(クラウド化)

### コロナ対応

- ・ PCR検査の効率化
- ・ 変異型コロナウイルスへの対応
- ・ 抗原定量/抗体検査への対応



# Mission

医療界に信頼され選ばれる企業をめざす

## ■ 中期経営計画 MISSION

### Customer Satisfaction

顧客満足

品質・サービスを充実し  
顧客満足を最大化する

### Synergy

相乗効果

様々な企業と  
相互の発展を目指す

### Social Responsibility

社会的責任

安定した検査機能を提供し  
社会・医療界への責任を果たす

## ■ 中期経営計画 社内行動方針

### Consensus

従業員の総意

社員の意識を統一して  
事業・業務を推進する

### Soundness

すべてに健全

健全な経営・健全な業務遂行  
(業績・財務・コンプライアンス)

### Standardization

標準化の追求

高品質と高効率を支える  
標準化の推進

# 基本戦略フレームワーク

標準化

品質の  
追求

検査品質  
×  
集配品質

競争力の拡充

ラボネットワークの充実

営業力の充実  
(顧客基盤の拡大と深耕・非保険分野の強化)

集配プロセスの革新

DX ~ 顧客体験価値向上 + 業務効率化向上 ~

経営基盤の強化

人財開発・活用

●BCP対応

●SDGs 対応

# ラボネットワークの充実

## 全国ラボ検査工程の標準化

- 標準化による品質向上
- ラボ管理体制の強化（採算/品質/労務）
- 拠点ラボサービスの最適化
  - 細菌検査の充実
  - 病理・細胞診検査の処理能力拡大

## 検査項目の充実

- 質量分析装置・次世代シーケンサーの拡充
- 感染症分野での新規検査の導入
- CDxへの対応（製造・販売体制の確立）

## 次世代対応

- 次世代ラボ構想の検討  
（次世代フロンティア・ケミストリー・ヘマトロジー・細菌）
- BML総合研究所の再構築

ラボネットワーク  
・8拠点ラボ  
×  
・全国緊急ラボ



検査工程の  
標準化

×



検査項目の  
充実

## 顧客基盤の拡大と深耕

- BMLグループ全社で連携したマーケティングの実施
- 本部と支社・営業所の連携による営業展開

## 非保険分野の強化

### 【医療情報】

- クラウド版 電子カルテの上市
- 臨床検査システム (B-Liner)の機能拡充

### 【予防医学】

- 検診事業の強化 (営業戦略/集荷体制の確立)

### 【食品衛生】

- 食品品質管理の総合コンサルティング
- 資格認証事業の拡大 (JFS-B/JFS-C)

# 集配プロセスの革新

## 利便性の向上 / 業務負荷の低減

### ■ デジタルレポーティングシステム(DRS)を推進

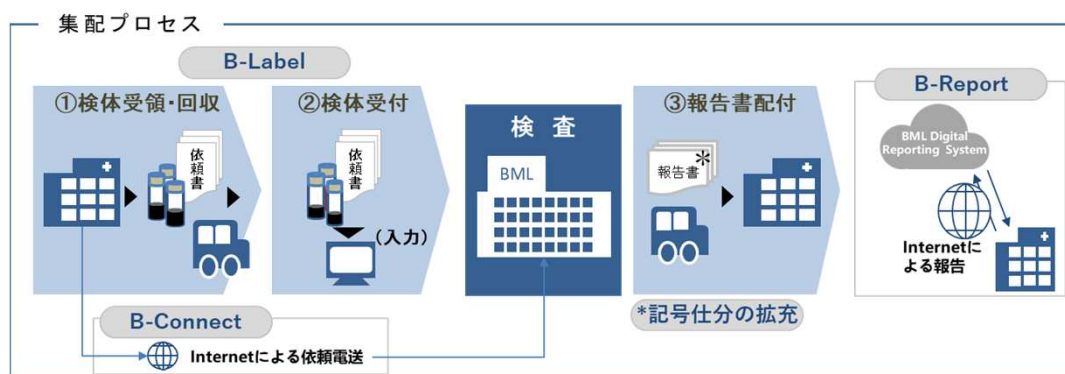
(依頼書/検体受付時)

- ペーパーレス化
- 検体ラベルによる採取間違いの防止
- 受付業務の簡素化

(検査報告時)

- インターネットによる検査結果の照会
- 報告書仕分けの効率化

⇒ 「パイロット地区」 から 「全国」への展開



## データ品質の追求

### ■ 温度管理の定着

# DX : デジタルトランスフォーメーション

## ～ 顧客体験価値向上 + 業務効率化実現 ～

- 1: お客様に新たな価値の提供/業務効率につながるデジタル技術活用
- 2: 環境変化に対応し、中長期的にIT革新を可能とする体制・基盤の確立

### ■ 1: デジタル技術活用

#### 新たなサービスの提供

- クラウド版電子カルテの開発
- 臨床検査システム ( B-Liner ) の販売
- DRSによる利便性向上

#### 業務プロセスの効率化

- 業務管理系システムの刷新 ( 人事/総務/販売管理 )
- RPAの展開

### ■ 2: DX 推進基盤の構築

#### デジタル人財の育成

- デジタル人財開発
  - ・新技術の習得
  - ・全社員の知識向上
- DX企画推進体制の整備

#### システム基盤の整備

- システム基盤の再構築
  - ・クラウド化
  - ・新ネットワーク化
- 既存IT資産の最適化

#### ITガバナンスの強化

- 経営者による情報発信
- BCP
- サイバーセキュリティ

BMLグループは、「医療界に信頼され選ばれる企業をめざす」のグループビジョンのもと、持続可能な社会の発展・成長に向けて、様々な取り組みを推進いたします。

**3** すべての人に健康と福祉を



**6** 安全な水とトイレを世界中に



当グループの主要事業領域

【臨床検査事業】      【環境検査事業】

**4** 質の高い教育をみんなに




- ・医療教育基金
- ・ラボラトリーフォーラム

**11** 住み続けられるまちづくりを



- ・保育園の外部解放

**8** 働きがいも経済成長も



- ・DRSの展開
- ・外部委託業務内製化

**13** 気候変動に具体的な対策を



- ・総研 強靱化対応
- ・新棟 太陽光発電設置

**9** 産業と技術革新の基盤をつくろう



- ・クラウド版 電子カルテ
- ・B-Liner展開

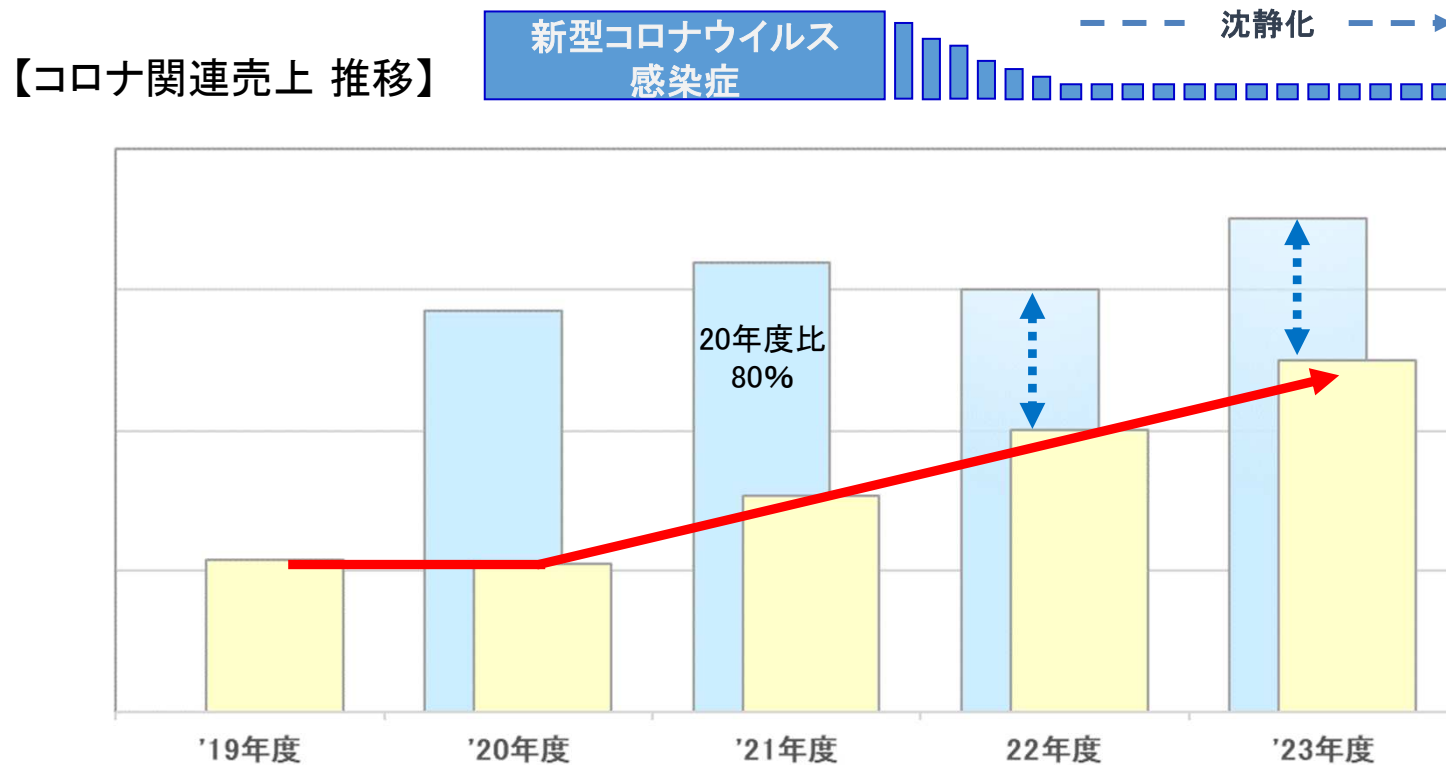
**17** パートナーシップで目標を達成しよう



- ・アライアンス  
(ラボ運営・システム開発)

## 第8次中期経営計画数値前提

- ✓ 新型コロナウイルス関連以外は、20年度を基準として着実に成長
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響は、21年度まで続き、その後段階的に沈静化することを想定





## 第8次中期経営計画数値目標

- ✓ 売上高 : 新型コロナウイルス検査の動向により最大1,450億円を見込む
- ✓ 営業利益率 : 2019年度までの過去5年平均8.3%を上回る8.5%以上

	2019年度	2020年度		2023年度
売上高	120,732	138,571	➔	135,000～145,000
営業利益	9,763	19,936		11,500～12,500
営業利益率	8.1%	14.4%		8.5%以上

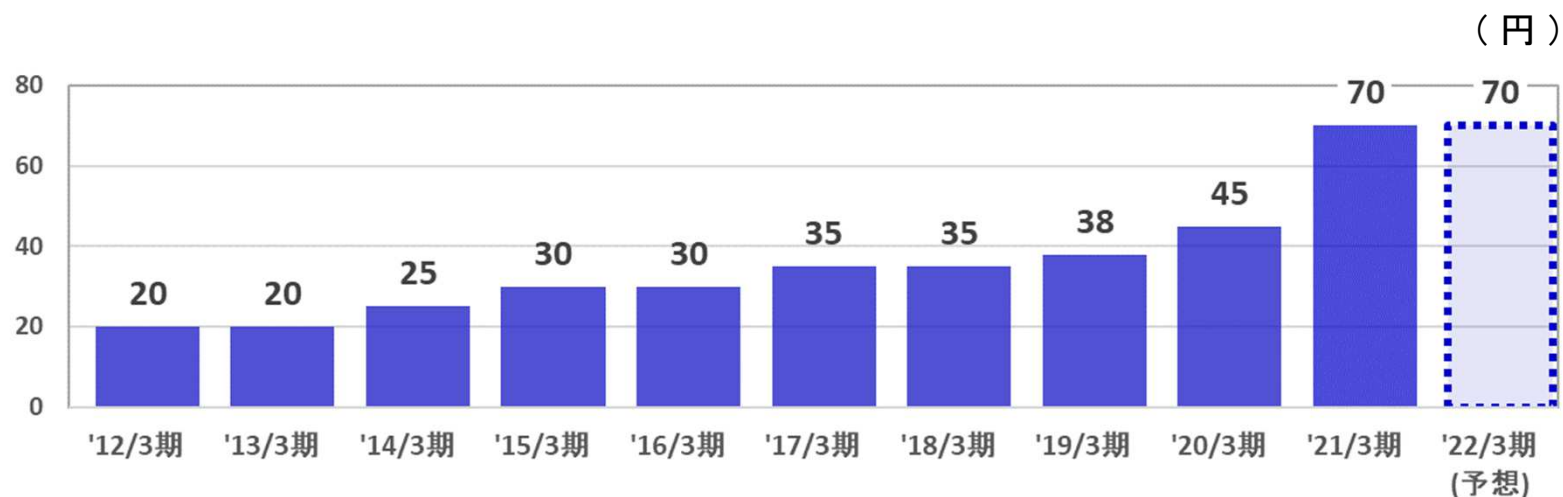
# 2021年度通期の見通し 配当金

# 2021年通期の見通し

	(百万円)			
	'20年度	'21年度	増減額	増減率
売上高	138,571	142,300	3,729	2.7%
検査事業	132,911	136,450	3,538	2.7%
臨床検査	128,612	132,050	3,437	2.7%
その他検査	4,299	4,400	101	2.3%
医療情報システム	4,214	4,300	86	2.0%
その他事業	1,445	1,550	105	7.3%
営業利益	19,936	19,200	-736	-3.7%
経常利益	20,803	20,100	-703	-3.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	13,711	12,700	-1,011	-7.4%

# 配当金

安定配当の維持、継続を基本方針とします



(注) '16年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割をしています。

(注) '16年以前は分割後の金額で表示をしています。

(注) '21年3月期は期末配当 50円を含め 年間70円を予定しています。



BML

---

その他

✓ 新型コロナウイルス感染症への対応に尽力されている  
医療従事者の方々への寄附を実施

◇ 医療従事者が安心して医療に従事できるよう支援することが目的

< 寄附金贈呈式 >



日本医師会 中川俊男会長(左)



日本看護協会 福井トシ子会長(左)



BML

医療界に信頼され  
選ばれる企業をめざす

品質・サービス **No.1** へ

## 当資料取り扱い上の注意点

---

### ＜将来に関する記述等についてのご注意＞

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。